



JICA中国 - 広島県の連携による草の根技術協力事業
「カンボジア元気な学校」プロジェクトから

特集:平和構築・復興支援

平和構築・復興支援の現状と課題

1992年のカンボジアにおける復興・開発支援事業以来、JICAは、ボスニア・ヘルツェゴビナ、東ティモール、アフガニスタン、スリランカなどで復興・開発支援事業を実施してきました。2003年に独立行政法人となつてからは、法的にも「復興」への寄与が事業目的の一つとして明記され、開発途上地域における平和構築・復興支援事業による貢献を、より明確に打ち出しました。

これらの流れを踏まえて、最近では、アンゴラ、シエラレオネ、チャド、リベリア、スーダン、エリトリア、コンゴ民主共和国など、いずれも紛争や内戦を経験したアフリカ諸国における平和構築・復興支援事業に、積極的に取り組みつつあります。

平和構築の考え方は、この10年あまりの間に出てきた新しい概念です。当初「紛争後」を対象として定義されていたものが、現在では「紛争予防」、「平和創造」そして「復興支援」までを網羅する包括的なアプローチとなっています。その中で開発援助の役割は、多国籍軍や国連PKOによる「軍事的枠組み」や、予防外交、軍縮、調停等の「政治的枠組み」とともに、包括的な取り組みの3本柱の一つとして位置づけられてるようになってきています。

従来、開発援助の取り組みというものが、難民支援、復興支援のそれに比べて大変速度が遅い、手続きに相当な時間を要していると言われてきました。確かに開発援助



地雷被災者のリハビリと自立支援を行う
カンボジア・シェムリアップ・リハビリテーションセンター
(吉田勝美氏撮影)

プロジェクトは、きちんとした事前の調査を行い、その評価に基づいて事業を実施していかなくてはならず、事業の開始までにどうしても1年～2年くらいの期間がかかってしまいます。しかしながら、復興支援の場合には、事業をどんどん前に進めない事態が逆戻りして、元の

紛争状態に戻ってしまう可能性が常に存在します。このため、迅速に現場で調査を実施し、事業を策定、実施することが必要です。一方、スタッフの安全の確保が不可欠であり、実施には相当難しい決定を迫られるケースも出ています。

対象とする国・地域についても、カンボジア、東ティモール、アフガニスタンのように和平の枠組みがすでに成立した国・地域、イラクのように



アフガニスタン・カブール市第8中学校で、
聴き取り調査を行うJICA専門家
(大石芳野氏撮影)

武力紛争が沈静化していない国・地域、スリランカのように局地的な紛争を抱えている国・地域、チャドのように近隣で武力紛争が発生し、難民の大量流入により大きな負担を強いられている国・地域など、それぞれ個別に最も有効かつ迅速なアプローチを考えなければなりません。

このように、平和構築支援事業は、不安定かつ混乱した状況において、刻一刻と変化する現地の情勢に対応した迅速かつ機動的な対応が求められています。JICAは、「より早くしかも安全な事業の実施」(より迅速に事業が着手できるようにファースト・トラック制度をつくりました)のためには、復興支援から開発援助まで、迅速で一貫したシームレスな(途切れない)支援をソフト面及びハード面から行うための体制整備に取り組んでいます。

最後に、「JICA中国」では、広島県、広島大学などとタイアップして、ボスニア・ヘルツェゴビナ「平和のための教育ネットワーク構築ワークショップ」、シエラレオネ「平和復興のための国際協力セミナー」、平和構築コンテンツ開発などの取り組みを行っています。

JICA中国による平和構築・復興支援事業

JICA中国の 平和構築への取組み

研修員受入事業

平和都市広島を管内に持つJICA中国では、教育分野と並んで、平和構築を2大分野特性と位置づけ、途上国からの研修員受入事業などを中心に活発な事業を行っています。平成17年度は、内戦経験国を対象にした国別研修を2件実施しました。

1つは、平成16年度から3年間の予定で実施している「ボスニア・ヘルツェゴビナ平和のための教育ネットワーク構築コース」です。3民族間による争いで20万人を超える犠牲者を出した同国では、現在民族和解のための様々な取組みが行われています。本研修は、同国の現職教員を広島に招聘し、平和や民族融和を実現するための教育について理解を深めようというものです。

もう1つは、「シエラレオネ平和復興のための国際協力セミナー」です。シエラレオネも91年から10年に渡って内戦を経験し、現在復興に向けた国の再建が行われています。昨年10月に約2週間に渡って行われたセミナーでは、同国の幹部行政官9名に広島の復興の歴史や平和についての取組みを学んでもらいました。インフラ施設や教育、保健医療、農業活動の現場視察も合わせて行い、同国の復興計画を作る上での参考にしてもらいました。

JICA中国では、このほか平和に対する取組みとして、昨年10月27日、広島に事務所を持つ国連訓練調査研究所（ユニタル）と連携してアフガニスタンの研修員とのラウンドテーブルミーティングを開催するなど、平和に関する会議、イベントなども数多く実施しており、今後もさらに充実させていきたいと考えています。



平和記念資料館を視察する
シエラレオネからの研修員の皆さん

草の根地域提案型 「カンボジア元気な学校プロジェクト」

草の根協力事業

ひろしま平和貢献ネットワーク協議会事務局長 古矢 久雄
(広島県総務企画部国際企画室長)

人類史上最初の原子爆弾による惨禍を経験した広島県では、平成15年3月、「創り出す平和」の理念に基づく「ひろしま平和貢献構想」を策定し、復興した広島の経験や蓄積された人材・施設を活用した様々な取り組みを進めています。その1つである紛争終結地域を対象とした「復興支援プロジェクト」において、最初の支援地域として、復興に力を注いでいるカンボジアを選定しました。

平成15年度に現地調査を実施した結果、同国においては、特に教育及び保健医療分野における支援ニーズが高いことが明らかになりました。引き続き16年度に、両分野の専門家等による詳細調査を実施し、17年度以降の具体的な支援策を検討しました。

そして、平成17年度からは、JICA草の根技術協力事業(地域提案型)により本格的に支援活動を実施しています。活動地域は、シェムリアップ州ブク郡サースダム。アンコールワットで有名なシェムリアップから車で約1時間の農村地域です。この地域の小学校を対象に、学校運営の改善、教科指導法の改善、環境と健康の重要性認識に向けた活動を展開しています。地方自治体として復興支援に取り組む新しい試みであり、JICA中国やJICAカンボジア事務所の方々から御協力や御意見をいただき、試行錯誤を繰り返しながら、教育事務所や小学校、保健センターなどでカンボジアの人々と一緒に活動して、カンボジアの将来を担う子供たちが、健康で元気に、思う存分学べる環境づくりを目指しています。



学校運営研修



健康診断

草の根パートナー型 スリランカ国

「ワウニア地区基礎保健サービス復興支援事業」

草の根協力事業

特定非営利活動法人アムダ(AMDA) 添川 詠子
(プロジェクトマネージャー)

スリランカでは、政府(シンハラ系)とLTTE(タミルイーラム解放の虎)の間で20年にも及ぶ内戦が行われてきました。2002年の停戦後、国際社会が同国の復興支援へ向けて協力し、日本政府も大きな役割を担っています。こうした状況の下、本事業は、特に内戦の被害の大きかった北部ワウニア県における地域保健サービスの復興を目指し、JICA草の根技術協力事業(草の根パートナー型)として、特定非営利活動法人アムダ(AMDA)が受託団体となり、2004年5月から2年間の予定で実施されています。事業の主目的は、地域の周産期女性及び乳幼児への保健医療サービスを向上させることです。

スリランカ北部では、多くの保健医療施設が内戦で破壊され、適切な保健医療サービスが受けられない状態が続いてきました。特に農村部では、分娩施設がないこと、地域保健システムが成り立っていないことなどが影響し、多くの妊産婦や乳幼児が命を落としてきました。本事業では、ワウニア県保健局をカウンターパートとして、同県の地域保健システム復興の一端を担い、地域助産施設を建設すると共に、地域で働く保健医療従事者の育成を行うことにより、特に公的な保健サービスが届きにくい草の根レベルへ裨益する技術協力を実施しています。

ワウニア県は主にタミル人が住む地域です。その南半分が政府地域、北半分がLTTE支配地域となっており、本事業は両地域において活動しています。草の根レベルで政府側とLTTE側が協力できるシステムを作り、摩擦を起こさずに地域保健活動を進めるといった試みを行っています。疾病予防や安全な分娩ができる環境を人々に与えたい、という気持ちは政府側、LTTE側、両者とも同様です。これを側面から支援することは、保健サービスの復興のみならず、和平への道への支援にもつながると思います。事業終了までの数ヶ月間、目に見える成果が残せるよう、そして、それが持続的活動につながっていくように、全力で取り組んでいきたいと考えています。



地域助産師の実地研修を行う筆者
(本事業で配備した胎児心音測定器を
妊婦健診にて活用)

「ひろしま国際平和フォーラム」 シンポジウム開催

平和シンポジウム

昨年11月23日に広島平和記念資料館において、「ひろしま国際平和フォーラム」シンポジウムが開催されました。広島県とJICA中国の共催による本シンポジウムも今年で3年目。今回は「広島発・つくる平和 - 何を学び、教え、どう活かすのか」をテーマに、広島が国際協力や海外の復興支援に力を注いでいくことの意義や、広島発の平和貢献で求められる支援のあり方が話し合われました。東京大学の藤原一教授ら第一線で活躍する研究者を招いてのパネルディスカッションに加え、続く分科会でも活発な議論が行われました。



「ひろしま国際平和フォーラム」シンポジウム

あなたの街のJICA国際協力推進員

JICA国際協力推進員とは?

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。地方自治体、NGO、教育関係、そして地域の人々が、JICAと一緒に国際協力を進めるためのパイプ役です。

「JICAって、どんなことをしてるの?」「青年海外協力隊に参加したい!」「開発途上国について、知りたい!」「開発教育ってなに?」などなど、皆さんの疑問・質問にお答えします。

国際協力に興味のある人、情報収集をしている人、実際にチャレンジしたい人、すでがんばっている人、お気軽に私たちに声をかけてください!

島根県

(財)しまね国際センター

TEL:0852-31-5056
FAX:0852-31-5055
配置先住所:〒690-0826

島根県松江市学園南1-2-1
くびきメッセ2F

E-mail:jicadpd-desk-shimaneken@jica.go.jp
URL: http://www.sic-info.org/



長富 邦恵
青年海外協力隊OG
派遣国:バングラデシュ
職種:家畜飼育

鳥取県

(財)鳥取県国際交流財団

TEL:0857-31-5951
FAX:0857-31-5952
配置先住所:〒680-0947

鳥取県鳥取市湖山町西4-110-5
鳥取空港国際会館1F

E-mail:jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp
URL: http://www.torisakuy.or.jp/ja/index.html



花岡 潤
青年海外協力隊OB
派遣国:バブア・ニューギニア
職種:村開発普及員

山口県

(財)山口国際交流協会

TEL:083-925-7353
FAX:083-920-4144
配置先住所:〒753-0811

山口県山口市吉敷3185-1

E-mail:jicadpd-desk-yamaguchiken@jica.go.jp
URL: http://www.yiea.or.jp/



鈴木 博子
青年海外協力隊OG
派遣国:セネガル
職種:野菜栽培

広島市

(財)広島平和文化センター

TEL:082-242-8879
FAX:082-242-7452
配置先住所:〒730-0811

広島市中区中島町1-5

E-mail:jicadesk@pcf.city.hiroshima.jp
URL: http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/index.cgi



磯村 祐子
日系社会青年
ボランティアOG
派遣国:ドミニカ共和国
職種:日系日本語
学校教師

広島県

(財)ひろしま国際センター

TEL:082-541-3777
FAX:082-243-2001
配置先住所:〒730-0037

広島県広島市中区中町8-18
広島クリスタルプラザ6F

E-mail:hic06@hiroshima-ic.or.jp
URL: http://hiint.hiroshima-ic.or.jp/hic/



白 築 健
日系社会青年
ボランティアOB
派遣国:ボリビア
職種:日系日本語
学校教師

岡山県

(財)岡山県国際交流協会

TEL:086-256-2917
FAX:086-256-2226
配置先住所:〒700-0026

岡山市奉違町2-2-1

E-mail:jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp
URL: http://www.opief.or.jp/



梶田三佐江
青年海外協力隊OG
派遣国:タンザニア
職種:コンピュータ技術



JICAボランティアによる平和構築への取組み

平和教育プログラム



広島市国際協力推進員
磯村 祐子

広島県から派遣されるJICAボランティアは必ずと言っていいほど、任国で「広島から来たのか?原爆の被害はどうだったんだ?」「今も被害は残っているのか?」と原爆に関する質問攻めに会います。「もっと自分に知識があれば...」「きちんとした資料があれば...」といったOB・OGの声に応え、2004年3月より、JICAボランティアには派遣前の出発前平和学習を受講していただいています。

平和学習というと、広島と核兵器の歴史を勉強するかのようと思われるかもしれませんが、もちろん、広島平和記念資料館の見学や職員の方による説明もあります。しかし、JICAボランティア派遣前平和学習で特徴的なことは、海外向け貸出資料とその申請方法の説明が行われることです。海外でヒロシマ・ナガサキの実情を伝えたいという方のために、広島平和記念資料館では様々な言語に翻訳されたポスター・ビデオ・DVDなどを提供・貸出しています。平和学習を通じて派遣前に資料申請方法を知っていただき、派遣後、任国での生活や活動に慣れて余裕が出てきた頃に申請、活用していただけるようになっています。

2006年までに、43名のJICAボランティアが平和学習を受講して派遣されていきました。

そして、現在までに以下の11カ国でJICAボランティアが中心となった「原爆」展が開催されました。

ニカラグア、ケニア、フィリピン、パキスタン、チリ、タンザニア、ハンガリー、ヨルダン、ボリビア、ルーマニア、ジンバブエ。



平和学習時に紹介される海外向け貸出資料
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター・ビデオ

原爆展



青年海外協力隊OG
15年1次隊 ニカラグア
小学校教諭
小坂 法美

2004年、ニカラグアでヒロシマ原爆展が開催されました。内戦のあったニカラグアで復興への希望と平和の大切さを伝えたいと思い、広島県出身の隊員仲間と共に企画しました。JICA、日本大使館、広島原爆平和記念資料館など多くの人々の協力によって、三つの都市で実現しました。会場では、ポスター・ビデオ・映画などによって、広島の被害や復興、現在の状況を紹介しました。

原爆の恐ろしさや悲惨さを目の当たりにした来場者からは、「憎しみや恨みを持っていないのか?」「復讐はしないのか?」といった質問を受けました。私はそういった言葉を聞いて、広島が行っている平和活動は当たり前なことではないのだと気がきました。被爆者の「二度と同じ苦しみを生んではいけない」という思いから、私達は怒りではなく平和を祈り進る姿勢を学んでいたのだと思います。

「原爆」展では、被害の実状や復興の紹介も大切です。しかし何よりも被爆者の願いやそれを受け継いだ我々の思いを、開催国の状況に応じて伝えることが大切だと感じました。

「原爆」展開催時に来場者の折った1,584羽の鶴と「ヒロシマ」へのメッセージを記帳したノートは、広島市内の小学校の平和学習に使われ、子ども達の手によって「原爆の子の像」に捧げられました。



平和の祈りを込めて鶴を折っています。

各県 国際協力推進員の活動

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。

鳥取県

平成17年度「国際理解セミナー(全2回)」開催

JICA中国と(財)鳥取県国際交流財団が主催する「国際理解セミナー」が、1月15日と2月19日に開催されました。第1回セミナーでは、JOCA(青年海外協力協会)中国支部より堀田直揮さんを招き、開発教育教材「世界がもし100人の村だったら」の参加型シミュレーション演習を、参加者全員で実際に体験しました。また、学校や社会教育の現場ですぐに活用できる教材を用いて、ファシリテーター養成講座も実施しました。参加者自身が、自分の周りから国際理解の輪を広げていくことが期待されます。第2回セミナーでは、学校現場、国際交流団体、国際交流財団というそれぞれの立場から国際交流・協力に関わる3名の講師(谷田孝之さん:小学校教諭、キップ・ケイツさん:とっとり国際交流連絡会運営委員、谷口正博さん:国際交流財団事務局長)のお話を聞き、鳥取県内での国際交流・協力活動の現状を知ると同時に、これからの課題や目標についてフリーディスカッションを行いました。今回のセミナーを通じて、県内で国際交流・協元に積極的に関わっている方々の交流、そしてネットワークをつくるきっかけができたのではないかと考えています。



「世界がもし100人の村だったら」シミュレーション演習の様子

島根県

国際理解セミナー開催(12/3・4、1/21)

(財)しまね国際センター共催事業の国際理解セミナーを、県職員会館(12月3日、4日)及び松江市国際交流協会(1月21日)で3回連続講座で実施しました。本年度は、地域の中の多文化共生社会～私達のふるさとと世界のつながり～をテーマに、3名の講師をお招きしました。第1回目(講師、高見早苗さん)は、「私達の身近にある異文化」について参加者の方々の異文化体験を発表し、またグループワークでは地元新聞記事(山陰中央新報社提供)を「地方」と「世界」に分けることによって、地域と世界との繋がりを感じました。第2回目(講師、桜井高志さん)は、「名前」を題材に外国人が日本に来て困ることなどをグループに分かれて話し合い、自分達が外国人になったらどんなふうを感じるのか疑似体験ゲーム(バーンガ)も行いながら、地域の中にある多文化理解や多文化共生について感じました。第3回目(講師、山藤美之さん)は、「たいようクラブ」の皆さんと参加者で「世界の料理」と題して南米やアフリカなどの料理を作りながら、「食から感じる国際理解」について学びました。今回のセミナーの参加者は、様々な分野(人権、地域ボランティア、国際、教育)および高校生からご年配の方まで幅広い年代層の方々が集まり、とても有意義なセミナーとなりました。

世界の子供達からコラージュが返ってきました。

昨年2月、浜田市世界こども美術館で「Around the World Art Project」という企画を実施しました。プロジェクトでは、子ども達がテーマを決めず、楽しい雰囲気の中で好きなように写真や雑誌、自分の書いた絵を切り貼りしながらコラージュを作りました。ここで出来た作品は、日本の子ども達の世界です。その作品は日本だけではなくとどまらず、世界各地で活動する島根県出身の青年海外協力隊員達の力を借りて、そこに暮らす子ども達の手により増作してもらった試みでした。

その増作された作品が、この度ブラジルとウガンダから返ってきました。協力頂いたのは丸山真由子さん(ブラジル派遣、日系青年ボランティア)と桐田晃さん(ウガンダ派遣、青年海外協力隊)です。丸山さんからは、「コラージュづくりをした時、子ども達はとても楽しそうで、1人1人いい顔をしてコラージュを作るんですよ。」というお話が届きました。



ブラジルの子ども達によるコラージュ作り

岡山県

インターナショナルサロン開催(1/14)

共催:(財)岡山県国際交流協会

「フィリピンの正月と生活」と題して、岡山市内で輸入雑貨店を営む藤原ルース・ジョジョさんが、クリスマスから正月、バレンタインの過ごし方を紹介。小学生から60歳代の参加者が、フィリピンの遊びシーバを楽しみ、フルーツサラダと一緒に作りました。フィリピンへの興味を深めることができました。

平成17年度ボランティア家族連絡会開催(1/29)

昨年度に続き、青年海外協力隊岡山県OV会が、その経験を活かし、派遣中隊員の家族にJICAボランティアを理解し安心してもらえるよう、ワークショップを開催しました。

地球市民講座開催(2/8、15、22)

共催:(財)岡山県国際交流協会

「アジアの中の日本」編として、シニア海外ボランティアOVの渡部真人さんが、モンゴルのゴビ砂漠での発掘調査などの話をするなど、日本から近いアジアの国について講演を行いました。

国際協力推進員交代(3月から)

新しく国際協力推進員が配置されました。青年海外協力隊員として2003年～2005年の2年間、タンザニアでコンピュータ技術の活動をしてきた梶田三佐江推進員です。(財)岡山県国際交流協会の中で、JICA岡山デスクとして活動します。よろしくお願ひいたします。



フィリピンの遊びシーバを教える藤原さん(インターナショナルサロン)

広島県

カンボジア・スタディツアー 大学生など16人が参加

JICA中国と(財)ひろしま国際センター(HIC)は、2月20日から27日まで「カンボジア・スタディツアー」(6泊8日)を実施しました。2年目の今年度は、18歳から68歳まで16人が参加。青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの活動現場をはじめ、アンコール遺跡があるシェムリアップ州でJICAが広島県と進める「元気な学校プロジェクト」など、35度を超える暑さの中、延べ22カ所の視察先を精力的に回りました。

大学生を中心に、国際協力や国際ボランティアに関心がある人がほとんど。「青年海外協力隊に応募したくなった」、「開発途上国の現状を伝えるフォトジャーナリストになりたい」。ツアー中にも、頼もしい声が数多く聞かれました。帰国報告会も開催予定です。興味のある方は、国際協力推進員までご連絡ください。

開発教育(国際理解教育)教材を拡充中

HIC(広島市中区)の一角に「JICAコーナー」があります。現在、国際協力や開発教育に関する教材を少しずつ収集中です。国連世界食糧計画(WFP)が日本のゲームメーカーと共同開発したビデオゲーム教材「フードフォースから学ぶ国際協力-食糧援助の最前線-」も入手しました。2週間以内の貸し出しもOK。ぜひ、ご活用ください。



JICAと広島県が支援するシェムリアップ州の小学校子供達に「将来の夢」を描いてもらった(ツアー参加者:左から山本利美さん、藤田高さん、山本宏樹さん、西村正亮さん)

広島市

平成17年度シニア国際協力ボランティア養成セミナー海外研修が無事終了しました。

(財)広島平和文化センター主催で行われた1週間の海外研修(1月23日～30日タイ・カンボジア視察)を終え、参加者16名それぞれが、大きな収穫を得て帰国されました。

今回は「インプット(学習すること)ばかりではなくアウトプット(伝えること)にも挑戦すること」を目標に、訪問先のカンボジア・日本人材開発センター(JICA技術協力プロジェクト)では現地の方々との交流会が企画されました。それぞれの得意分野を活かし、書道、お茶、折鶴の体験コーナーや、ヒロシマ・ナガサキ原爆ボスターの展示、「原爆」紹介ビデオの上映などが行われ、学生を中心とした100名以上の参加者は、時に真剣に、時に笑顔で交流を楽しんでいました。

この他にも、NGO活動現場視察に加え、JICAシニア海外ボランティアの活動現場視察が4箇所で行われ、リハビリテーションセンターや幼稚園教員養成学校で活躍するシニア海外ボランティアの方々と積極的な意見交換が行われました。

研修後、参加者からは「私も海外で活躍してみたい」「まずは地域で何ができるかを探したい」「シニア海外ボランティアに挑戦してみたい」など、頼もしい意見が出てきました。シニア世代の第2の人生、夢はどこまでも膨らませる事ができるようです。



アキ・ラ地雷博物館で熱心に解説を聞く参加者たち

山口県

人と人とのつながりが平和へ

今期も、日々の業務・出前講座・青年招へい事業などで、私自身やその場を共有する者同士...たくさんの素敵な出会いがありました。そんな中でよく聞き、また私自身も感じることは、「こうした身近な人と人とのつながりが、世界にもつながっているんだ。」「日々の生活・身近な人々との普段のつきあいを大切にしたいねえ。」「その積み重ねが、世界の平和に結びつくはず。」ということです。(財)山口県国際交流協会と共催した国際理解教育講座の後半3回は、狭義の学校教育の中での国際理解教育の手法や理念ではなく、「つながり」「暮らし」「多文化共生」「まちづくり」をテーマに、「どんな気持ちで、どんな風に暮らすか?他人や自分自身とどう向き合うか?」ということを参加者と一緒に考える講座になりました。これからも今までの出会いを大切に、国際協力・国際理解教育に今まで関わったことのない人にも興味・関心を持ってもらえるような活動を広げていきたいと思ひます。



ネパールからの招へい青年とホストファミリーの送別会

技術研修の窓

3つの民族を結ぶ「ヒロシマ」

「平和・復興」の象徴として世界で知られている広島。JICA中国では、こうした地元の長をを活かし、紛争を経験した国々で復興や平和に取り組む人材を対象とした研修を行っています。「ボスニア・ヘルツェゴビナ平和のための教育ネットワーク構築コース」はそうした取り組みの一つで、今年で3年目を迎えます。

旧ユーゴスラビア連邦の一つであったボスニア・ヘルツェゴビナ(以下BiH:ピッチ)では、1992～95年の内戦で20万人以上が犠牲になりました。内戦では3つの異なる民族が互いに争い、戦後10年が経過してなお根強く残る民族間の亀裂や不信感をどう克服するかが、BiH社会の大きな課題となっています。

この研修は、こうした状況に対する民族融和促進のための試みとして始まりました。対象とするのは現役の教員。それぞれ民族は異なりますが、学校で平和や人権教育に携わっている先生達です。研修では、平和構築や広島の復興に関する講義のほか、教員経験を持つ被爆者や平和に取り組むNGO

との意見交換、学校訪問等を通じ、平和を実現するための教育について理解を深めます。自国でなかなか交わる機会のない他民族の教員と、1ヶ月間平和や教育について学び議論する経験をもった研修員たちは、帰国後「ヒロシマ」という共通項でつながるネットワークをもとに、日本や広島の教訓を活かしながら、平和や民族融和を図る教育活動を行っています。



「ボスニア・ヘルツェゴビナ平和のための教育ネットワーク構築コース」で
広島女学院高校の学生と意見交換する研修員の皆さん



広げよう! 市民参加の輪

フィリピンと広島を結ぶ平和交流テレビ会議

フィリピン 15年3次隊 青少年活動 作増 良介隊員
第二次世界大戦の戦禍の地、広島とフィリピンのパターン。この二つの地から平和の波を起こそうと終戦60周年に当たる昨年、両地の高校生が平和をテーマにした対話交流会を行いました。この交流会ではJICA ネットというTV会議システム(JICA中国とJICAフィリピン事務所を繋ぐ会議)により、大スクリーン越しに互いの顔を見ながら臨場感あふれる対話交流が行われました。

私は、フィリピンのパターン州で青少年活動という職種で派遣されています。配属先の市役所から、スポーツ以外で青少年の交流活動を企画してほしいとの要望がありました。そこで戦時中の日本軍による「死の行進」で有名であり、現在はフィリピンの平和の象徴の地となっているパターンと、原爆の惨禍から味わい、平和についての思いを真摯に受け継ぐ広島の高校生が平和について議論し、学びあう交流会を企画しました。

この交流会に先立ち、私はパターンでは広島への理解を広げようと「原爆」展を開催し、地元の小学校や高校を巡回しました。また広島側でも、戦時中にパターンで行われた悲劇「死の行進」を紹介したDVDを鑑賞するなどして互いの歴史を学び合いました。

こうして互いにしっかりと事前学習を行った上で、昨年8月に広島県立安古市高校とパターン国立高校との間で、また11月には私立広島女学院高校とパターン国立高校との

間で、平和交流会が行われました。交流会では、パターン、広島双方についてのイメージを互いに率直に語り合いました。また、ユダヤ人にビザを発行した日本人外交官杉原千蔵氏の行動について、よく考え抜かれた意見の交換が行われ、会場を沸かせました。この交流会に参加した広島のある高校生は、次のような感想を寄せています。

「私は、外国の人たちとただ普通におしゃべりするのではなく、何かのテーマについてキチンと話し合ったのは初めてでした。日本人ではない相手が意見を言い、『私もそう思う! あなたの意見に賛成!』と思えることの素晴らしいさに感動しました。」

こうした「共感を呼ぶ」という作業を地道に繰り返すことで、平和は作られていくのだと強く実感できた交流会でした。広島とパターンの高校生たちは、過去の悲惨な歴史を踏まえつつ、よりよい未来のために動き出しています。



平和をテーマにしたテレビ対話交流会

地球に、笑顔の種をまこう。

達ったら、迷わず相談しよう。OB・OGに助けを借りながら「体験談＆説明会」を全国で250回開催

ホームページでは、さまざまなボランティアを紹介。 www.jica.go.jp

青年海外協力隊 募集中

シニア海外ボランティア

応募期間：4月1日～5月10日

02-2406-9900 (受付時間：10時～17時) 02-2406-5272

JICAボランティア・平成18年度春募集『体験談&説明会』会場一覧表

『体験談&説明会』(所要時間：約2時間)は、参加費無料・予約不要・入退室自由です！
 詳細はJICA中国HPをご覧ください。 <http://www.jica.go.jp/branch/cic/pages/volunteers/index.html>

県名	日程	会場	開催時間	会場までの交通	住所
鳥取	4月15日(土)	鳥取県立県民文化会館	14:00～	JR鳥取駅下車 徒歩20分	鳥取市尚徳町101-5
	4月25日(火)	鳥取県立倉吉未来中心	18:30～	倉吉バークスエアバス停下車 徒歩1分	倉吉市駄経寺町212-5
島根	4月22日(土)	松江テルサ	16:30～	JR松江駅下車 徒歩1分	松江市朝日町478-18
	4月26日(水)	石炭文化ホール	18:30～	JR浜田駅下車 徒歩3分	浜田市黒川町4175
岡山	4月 8日(土)	倉敷市芸文館	16:30～	JR倉敷駅下車 徒歩15分	倉敷市中央1丁目18-1
	4月16日(日)	岡山国際交流センター	16:30～	JR岡山駅西口 徒歩2分	岡山市奉還町2丁目2-1
広島	4月24日(月)	岡山国際交流センター	18:30～	JR岡山駅西口 徒歩2分	岡山市奉還町2丁目2-1
	4月 9日(日)	広島県民文化センターふくやま	16:30～	JR福山駅下車 徒歩4分	福山市東桜町1-21
山口	4月13日(木)	広島市まちづくり市民交流プラザ	18:30～	広電袋町電停下車 徒歩3分	広島市中区袋町6-36
	4月18日(火)	広島大学国際協力研究科	18:30～	JR西条駅からバス15分 大学会館前バス停下車	東広島市鏡山1-5-1
山口	4月23日(日)	広島市まちづくり市民交流プラザ	16:30～	広電袋町電停下車 徒歩3分	広島市中区袋町6-36
	4月 9日(日)	スターピアくだまつ	14:00～	JR下松駅下車 徒歩15分	下松市中央町2-1
山口	4月19日(水)	海峽メッセ下関	18:30～	JR下関駅下車 徒歩15分	下関市豊前町3丁目3-1
	4月23日(日)	ば・る・るプラザ山口	16:30～	JR山口駅、山口駅バス停下車 徒歩1分	山口市惣太夫町1-15

シニア海外ボランティア

県名	日程	会場	開催時間	会場までの交通	住所
鳥取	4月15日(土)	鳥取県立県民文化会館	10:30～	JR鳥取駅下車 徒歩20分	鳥取市尚徳町101-5
島根	4月22日(土)	松江テルサ	13:30～	JR松江駅下車 徒歩1分	松江市朝日町478-18
岡山	4月 8日(土)	倉敷市芸文館	13:30～	JR倉敷駅下車 徒歩15分	倉敷市中央1丁目18-1
	4月16日(日)	岡山国際交流センター	13:30～	JR岡山駅西口 徒歩2分	岡山市奉還町2丁目2-1
広島	4月 9日(日)	広島県民文化センターふくやま	13:30～	JR福山駅下車 徒歩4分	福山市東桜町1-21
	4月13日(木)	広島市まちづくり市民交流プラザ	18:30～	広電袋町電停下車 徒歩3分	広島市中区袋町6-36
山口	4月23日(日)	広島市まちづくり市民交流プラザ	13:30～	広電袋町電停下車 徒歩3分	広島市中区袋町6-36
	4月 9日(日)	スターピアくだまつ	10:30～	JR下松駅下車 徒歩15分	下松市中央町2-1
山口	4月23日(日)	ば・る・るプラザ山口	13:30～	JR山口駅、山口駅バス停下車 徒歩1分	山口市惣太夫町1-15

の会場にはJICA健康管理センターからの職員が出席し、応募に際しての健康の相談等も受け付けます。

お問い合わせは **JICA中国(中国国際センター)ボランティア係**まで!

電話:082(421)6310 FAX:082(420)8082 E-mail:jicacic-jocv@jica.go.jp

JICA 職員採用説明会

(2007年度卒業見込み者対象)

去る2月25日(土)に、ひろしま国際プラザで、職員採用説明会を開催しました。26名(男性は僅か4名)の参加者の感想は、「職員の生の直接的な意見が聞けて、具体的なイメージが持てた」、「JICAを志望する気持ちが強くなり、国際協力を考える点においても勉強になった」など、JICA中国の気持ちが、確実に伝えられた楽しい一日となりました。



グループ別個別相談プログラムでの三浦職員と参加者

平和と国際協力の列島シンポジウム ピース・トークマラソン2003-2007 in 島根

PTMは、「1人ひとりのできること。1人のためにできること。」をテーマとして、平和や国際協力の大切さを意識するきっかけを提供する目的で、3年半に亘って47都道府県で巡回開催されています。3月11日(土)には、松江市の「くにびきメッセ」で、山陰中央新報社との共催で開催されました。タケシさん議りのジョークを交えての「一人ひとりのできる!北野 大のやさしい環境講座」では「環境問題の原因は、貧困」に、200名の参加者が「なるほど!」と納得しました。



背中から真剣さが伝わります!(パネルディスカッション)

開発途上国で活躍中の 中国5県 JICA ボランティア・専門家

(2006年2月現在) ()内は、専門家内数



県名	専 門 家	青年海外協力隊	シニア海外ボランティア	日系社会青年ボランティア	日系社会シニアボランティア	合 計
鳥取県	6	10	0	0	0	16
島根県	9	14	1	1	0	25
岡山県	14	38	9	2	1	64
広島県	13	49	5	1	0	68
山口県	6	27	6	0	0	39
合 計	48	138	21	4	1	212

お問い合わせ

独立行政法人国際協力機構 中国国際センター (JICA中国)
 〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内(総務チーム)
 TEL:082-421-6300 FAX:082-420-8082 E-mail:jicacic@jica.go.jp
 URL:<http://www.jica.go.jp/branch/cic/index.html>

JICA中国ニュースのバックナンバーがHPよりダウンロード出来るようになりました!!
 詳しくはこちらをご覧ください
<http://www.jica.go.jp/branch/cic/pages/whatscic/news.html/>

